

【評価実施概要】

事業所番号	0172500266		
法人名	医療法人社団 滋恒会		
事業所名	グループホーム なかじま		
所在地	北海道余市郡余市町大川町4丁目23番地 (電話) 0135-30-7200		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(H21年3月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.3人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,550 ~ 21,550 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護 1	1名	要介護 2	7名		
要介護 3	4名	要介護 4	4名		
要介護 5	2名	要支援 2	0名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島内科医院、余市協会病院、荒木歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

余市の海岸線に近い商店街の一角にある2階建て2ユニットのホームである。南側に広い園庭があり、日当たりがよい。居住空間は利用者や職員の日常の動線を巧みに取り入れ、廊下、トイレ、風呂など介護上の諸用具を活用できるような様々な工夫と配慮がされている。また、居間も広く、団楽と食事が楽しめる空間になっている。運営母体が医療法人であることから、週1度は医師の往診があり、迅速な医療対応が期待できる。管理者の下に、適切な職務分担ができていて職員のチームワークもよく、職員は常に利用者に笑顔で接し、利用者の表情も穏やかで明るい。家族は職員に対して非常に高い評価をしており、信頼も厚い。これからも地域や家族に支えられて発展していくホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については次のように改善している。同業者との連携については:町内の同業者に呼びかけ連絡会を結成し、各同業者との情報交換、利用者を含めての施設訪問等の事業の行っている。今後職員の研修事業も開催の予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が中心になり、職員全員が自己評価の意義や目的を理解し、利用者の視点にたち現状を分析・検討し、課題の共有を図りつつ実施している。職員の意識の向上やサービスの質に向上に活かした積極的な取り組みが見られた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、会議では、ホームの活動状況、利用者の状況、外部評価の結果、運営上の課題や今後の取り組みなどについて意見交換している。また、懸案事項等についても取り組みの状況を報告し、意見をもらう等モニター的存在になりつつある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、苦情はできる限り取り入れ、聞くような機会を設けている。職員会議や運営推進会議にて話し合い、日々の運営に活かしている。また、利用者の状況を毎月発行の「暮らしのお便り」に手紙を添えて報告するなど家族との信頼関係の構築に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会主催のパークゴルフ大会、焼肉パーティー等の行事に積極的に参加し、近くの学校からの訪問も多い。また、ホームでも町内の盆踊り大会には園庭を提供したり、職員は趣味の楽器演奏や福祉劇団を結成し、地域で福祉の普及のための介護劇イベントを開催するなど積極的に地域住民との交流に努めている。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で家庭的な環境のもと、「利用者一人ひとりの尊厳を守り、明るく安心の出来る暮らし」を事業所独自の理念として掲げ、日々の実践に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・スタッフは、理念を事業所内に掲示し、日々その理念を確認しながら業務に取り組んでいる。また、月1回全体会議を行い理念や運営方針について話し合いを持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事のパークゴルフ大会やシルバーアート展等にも積極的に参加。買い物などで住民と顔見知りになり、気軽に声を掛け合う付き合いにもなっている。町内の盆踊り大会もホームの前庭で行われている。また新しくホーム職員で劇団を結成し、「介護劇」を地域の会館や学校で上演し、好評を得ている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価・外部評価の意義を十分に理解している。今回の自己評価も職員全員で取り組んでおり、常にサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの活動状況、利用者の状況、運営上課題等について意見交換され、これらの意見は記録し、施設面の改善や地域交流の実現などのサービスの質の向上に活かされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議のメンバーに町の担当者も参加し、常にホームの運営について意見交換をしている。また、町が主催する研修事業等についても積極的に参加している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時や月1回の「暮らしのお便り」で利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態について写真入で知らせている。また金銭管理についても月に1度領収書を添付して報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来所時には必ず声をかけ、意見や不満などをゆっくり聞ける機会や場所を設けるなど家族と馴染みの関係づくりに努めている。意見箱も設置してある。今後家族会の設置も考慮している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、職員の働きやすい勤務体制や休日の希望等について聞き取り、出来る限り配慮するよう努めている。また、2ユニットであることから、相互の職員との関係を日頃からつくっており、異動や離職のあった場合に対応できるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、職員一人ひとりの意見を聞き研修計画を立て、職員の専門性の育成に取り組んでいる。研修終了後は職員会議等で報告するようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内のグループホーム連絡会を結成し、定期的に情報交換や訪問交流をするなどし、互いにサービスの質の向上のために活かしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者がホームの雰囲気に馴染めるよう事前に見学と一緒に遊びにも参加するなどして、家族と相談しながら安心感をもってもらえるよう段階的な工夫をしている。入居後は環境の変化に留意し、同居者とのコミュニケーションをサポートするようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者の不安、苦しみ喜びを知ることにより、共感できる関係を築いている。また利用者の得意なことの力を発揮できるような機会や場づくりに配慮・工夫をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりのなかで、表情や言動から一人ひとりの思いや移行の把握に努めている。家族からも情報収集してケア会議で検討して本人の希望に沿うように本人本位の支援に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の記録や本人、家族の意見・要望等からアセスメントを行い、職員、ケアマネジャーと十分協議を重ね、心身の状況、生活能力を考慮し、意向を確かめた上で介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に見直しを行っている。介護計画の実施状況は毎日のケア記録に記入されている。サービス担当者会議で本人の満足度、家族の意向の確認、今後の対応を討議して現状に即した見直しを実施している。状況変化時は随時見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の要望に応じて通院支援、買い物、外食、町内の敬老会への参加、いちご狩りなど多機能性を活かして地域で暮らす当たり前の生活支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体法人が病院で「医療と介護の連携」を理念に揚げ医療機関と密に連携、24時間対応が可能な為、安心して暮らせる医療体制になっている。かかりつけ医の往診により適切な健康管理が行われている。必要に応じて通院支援も行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホーム利用時に終末期のあり方について、本人、家族の意向を確かめ記録している。かかりつけ医、家族、スタッフ全員はマニュアルの方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者との会話はプライドやプライバシーを損ねることのないように気配りをした対応をしている。訪問時の面会簿もカード式用紙に記入してスタッフに渡し、個人情報の取り扱いの配慮をしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日常生活の一連の流れの中で利用者がゆったりした気持ちで生活できるように配慮しながら、その時々希望や思いを受けとめ、一人ひとりの思いに寄り添うような支援に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて調理の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、片付け、時には調理方法を聞くなどして自力を引き出す工夫をしている。スタッフは一緒に食事をしながら声かけ、見守りをしてしながら楽しい雰囲気での食事の支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によって入浴できる体制となっている。ケア記録のチェック表によって入浴状態が具体的に把握できる工夫をしている。浴室の手すりは適切に設置されていて、安心して入浴できる配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道、折り紙、掃除、調理の手伝い、花壇、野菜作りなど一人一人の趣味や特技を活かして張り合いや喜びになるような支援をしている。また、シルバートアート展に作品が出品されるなど目標を持つ機会も作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	海や商店が近く戸外に出やすい環境に恵まれ、散歩する機会が多い。外食、いちご狩り、サクランボ狩り、町内の行事参加などホームから戸外に出かけられるような機会を多くつくり、支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の安全確保のため施錠しているが、日中は施錠せず出入りは自由となっている。スタッフは利用者の安全面に配慮して見守り支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年一度、消防署の協力により避難訓練を実施している。緊急連絡網を作成して災害時の対応訓練も行っている。運営推進会議でも避難訓練の予告、実施状況の説明をするなど地域の理解と協力要請に努めている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>ケア記録に食事量、水分量を記録して摂取状態を把握している。必要に応じてかかりつけ医や看護師のアドバイスをうけ栄養バランスが良い食事量を摂取できるような支援をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の生活空間全体は木目作りとなっていて落ち着いた雰囲気となっている。食事と今は調理室で区切られ、畳の小上がり、広いベランダなどの利用者は好きな場所で過ごせるように居心地よい共用空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室入口の戸はアクセントに和紙を使用して障子の雰囲気を出せる工夫をしている。居室に似顔絵や自分の作品を飾り、馴染みの家具や調度品が自由に持ち込まれ安心感ある居室となっている。</p>		

 は、重点項目。